

平成 30 年度岩手県立博物館協議会における意見等の反映状況等

No.	意見等の概要	反映状況等
○広報関係について		
1	<p>【アピールする広報、取材を受ける仕掛け】について</p> <p>広報 PR は、紙面に載ったり、放送されたりという際の、アウトプットの間口を広くすることが、取り上げられることにつながる。</p> <p>例えば、「たいけん教室」を行う時、単発でなく 2 週連続とかにしてうまく仕掛けると、最初の週の土曜日に取材をし、体験的な記事が書けたりする。子ども向けあるいは親子でという企画とか、できれば展示とリンクしているものもよい。</p> <p>そういう情報を早めにマスコミにリリースすることで、記事や放送にしてもらえるのではないか。</p>	<p>館では、教育記者クラブへの情報発信のほかに、事前に様々なマスメディアに対し、早めの情報提供としてチラシ等の送付を行っている。</p> <p>館で行っている事業の内容を、適時適切に県民の皆様を理解していただくためには、館からのマスコミへの働きかけとか、行動が重要と考えている。</p> <p>仕掛け、企画を工夫し、マスコミの皆様から協力をいただきながら、周知等に一層努めていきたい。</p>
1②	<p>【博物館での体験の記事】について</p> <p>小中学生が博物館で体験したことを記事にすることがあってもいいのかなと思った。</p> <p>例えば、博物館で被災資料修復の体験をしてみても、こういうことがあったんだと学んだということを発表する場になるといいのかなと思う。親子で参加するようにしてもいいのかなと思った。</p>	

2	<p>【来てみたくなる、キャッチーな、斬新な広報】</p> <p>予算面は厳しいようであるが、例えば、ポスターを全く違うコンセプトで作ってみること、多くの方々に来てもらうことを目指して、キャッチーな、斬新な、何か別なことをやろうとしてるぞと思わせるものにするのはどうか。ちょっと久しぶりに行ってみようかと思ってきて、館の面白さを知って、また来るというリピーターはいるのではないか。何だか楽しそうだと思う場所になれば、ということを考えて。</p>	<p>近年の展覧会は主担当者とプロジェクトチームが連携し、チームの外部デザイナーの協力を得て、ポスターのデザイン性は高くなっており、岩手広告協会主催の岩手広告賞・ポスター部門で最高賞の岩手広告賞ほか二度受賞もしている。</p> <p>イベント関係も、お金をあまりかけられない状況だが、学芸員共々工夫を凝らし、5月のゴールデンウィーク期間中にSLを走らせたり、10月にクラシックカーイベントを開催したりとか、今まで博物館では考えられなかったこともチャレンジしながらやっている。</p> <p>リピーターも増えており、多くの収蔵資料を活用しながら、またトピック展を活用しながら、「何度来ても飽きられない博物館」となるよう、さらに取り組んでいきたい。</p>
<p>○展示関係</p>		
3	<p>【特別展示室の改装等】について</p> <p>企画展示に使っている特別展示室の使い勝手はどうか気になる。順路等のシールを床に貼ったりして工夫しているが、充実した企画展示をするために狭かったり、部屋の構造として使いにくかったりしないか。</p> <p>展示する側、観る側両方の声を聞いて、改装等進めて行ってもいい時期ではないかと感じた。</p>	<p>特別展示室は、開館後しばらくして新たに映像室を作った関係で狭くなっている。</p> <p>企画展を行う際に、資料の展示数に制限が出てきたり、そういう不便があるのは事実である。</p> <p>本年度においては、来年度の40周年展開催に向けて展示ケースのガラス交換などを行ったが、館の大規模リニューアルに向けて、県教育委員会と検討を進めている。</p>
4	<p>【動画、映像ソフトの活用等】について</p> <p>クモ展で貴重な動画、映像が見られた。</p> <p>ハード面では、特別展示室のサイズ、動線と併せて、改装に当たって映像機器を特展室にどう配置するか。また、そういった貴重なソフトを保持する、新しいものとしてバックアップする体制ができればと思う。</p>	<p>特別展示室の映像機器活用に関するものであり、大規模リニューアルに向けた検討の中で、委員からの提言を踏まえて、対応して行きたい。</p> <p>(映像室も人気があり、恐竜大進撃など、時期によっては1日に何回も上映されている。)</p>

5	<p>【県内関係施設との連携等】について</p> <p>「出前講座」はどのようにやっているのか。</p> <p>また、各地域の資料館に県博の資料を持って行って並べたりということはあるのか。そういう連携があればいいと思う。</p>	<p>出前講座のメニューは色々用意しており、高校の利用が多いが、一般の方からの依頼にも対応している。最近、小学校の「昔の暮らし」の希望が春休み前に集中する傾向がみられる。</p> <p>出前講座については、無料で利用いただけることをもっと宣伝していきたい。</p> <p>本年度は、文化振興事業団が各事業所合同で地域を巡回する「事業団プレゼンツ」を実施（一関市）したほか、三陸ジオパークワクワクフェスタにおいて沿岸2か所（岩泉町、大船渡市）で国立科学博物館及び現地関係機関等と共催の巡回展を実施した。</p>
6	<p>【ハンズオン資料、着付け体験等】について</p> <p>たいけん教室に参加して感じたが、本物に触れる、また昔のものを着られる企画もいいのではないか。</p>	<p>通常期でも、主に体験学習室や文化史展示室にハンズオン資料を置いている。また、体験学習室には着用できる歴史装束（甲冑、明治期の夜会服、女学生服、雫石あねこ装束など）がある。</p> <p>夏・冬休み時期に行っている「子どもツアー（子ども向け定時解説）」では多くのハンズオン資料を盛り込んだ内容にしている。</p> <p>本年度の企画展「よろい、かぶと、かたなの世界」の関連事業として「子ども向け甲冑着用体験」を3日間実施した。</p>
<p>○展示以外の企画関係</p>		
7	<p>【民俗芸能の継承】について</p> <p>岩手は民俗芸能の宝庫であると言われているが、少子化で担い手が減ってきている。消えゆく伝統芸能を残して、つないでいくことも大事と思う。</p> <p>博物館まつり等で、芝生広場で数団体の発表などもよいのではないかと思ったりしたところである。</p>	<p>以前は伝統芸能鑑賞会というイベントもあったが予算減により休止している。まつり等で数団体の発表は理想的だが、予算縮小の時勢から大変厳しい状況である。</p> <p>来年度の40周年記念展では、沿岸部の高校で活動がなされている4校に来館してもらい発表してもらうことを予定している。</p> <p>一度なくなってしまうと、復元には労力があるので、継承することの大切さを広めたい。</p> <p>「三世代に楽しんでもらえる博物館」を目指し</p>

<p>7②</p>	<p>【高校生の民俗芸能発表の活用等】について</p> <p>子連れ、孫連れで楽しい場所であることが、リピーターを増やす一つの要素なのかと思う。</p> <p>高校生の民俗芸能の発表には、応援団がたくさん来る。保護者は勿論、地域で実際に彼らに教えている方々など、一人の生徒に他の種目の3、4倍の人数が来るのが特徴的なところ。</p> <p>入館者数が全てではないが、人を集める要素にはなるかと思う。</p>	<p>て、二戸市から奥州市までの小学校児童全員に「いわはく子ども新聞」を配付している。これを手にして、子どもが親や祖父母と一緒に来て、ということも増えている。</p> <p>予算縮小の時勢から予算確保が難しいが、継承と集客の両面から考えたい。</p>
<p>8</p>	<p>【「三閉伊一揆」の紙芝居の博物館での開催】について</p> <p>「三閉伊一揆」の舞台化、畳一畳分の布を使って、一揆の場面を16枚描いて行う劇だった。</p> <p>一揆の舞台はそのままでよいし、さらに人材を活用して、少し手を加えたりして、博物館の施設で、やるのはどうか。子どもたちの歴史学習の大きなテーマとして、一揆と大震災、どうやってこれから生き抜いていくか、困難を乗り越えていくのにどういうことを先人から学ぶのか、ということを考えながら、本日参加したところである。</p>	<p>紙芝居については、事前に電話でもお話を伺い、資料まで拝見させていただいた。</p> <p>ご提案の内容でそのまま博物館で実施することはできなかったが、「三閉伊一揆」については、総合展示室の一揆の箇所解説員や学芸員が来館者にご説明する場面があり、お話のご趣旨を参考にさせていただきたい。</p> <p>また、ミュージアムシアターでの映画上映、ミュージアムコンサートでの気軽な音楽コンサートなどを実施しているが、講堂等を活用し、色々なツールを使った学習機会の提供等については、さらに考えて参りたい。</p>

9	<p>【文化・歴史の観察会】・【市民ボランティアの協力】について</p> <p>来年度の計画では、歴史、地質、考古の展示を行う予定で、教育普及事業としては、地質、自然、考古の観察会があるが、文化・歴史の観察会があってもいいのではと思った。</p> <p>文化とか歴史の観察会をできれば複数回企画して、1回目の様子や経験を次に向けて発信するとかするのはどうか。</p> <p>調査、研究等ではなく普及のボランティアというか、そういう形の市民参加型の協力員を考えてもいいのではないかと。</p>	<p>これまで、展覧会の関連事業として IGR と連携して、「南部氏」関連の史跡を回ったことがあり大変好評だったが、歴史部門として館単独の観察会をこれまでは実施してきていない。</p> <p>バスを使った集合観察会は、観光業法への抵触（公募応募者からのバス代徴収は観光業者に限定）の恐れがあり、毎回、旅行会社と企画することや、現地集合現地解散の適地を捜すことはやや難しいところであるが、今後とも、さらに検討して参りたい。</p> <p>市民ボランティアについては、生物部門及び博物館まつりの際に、これまでも協力いただいているが、さらに観察会でのガイドボランティア等、積極的にお願いしていくことを考えて参りたい。</p>
---	--	---

○入館者数の確保関係について

10	<p>【別用務をきっかけとした観覧】について</p> <p>八幡平市では本年度の校長会議を八幡平市博物館で行った。久しぶりに博物館に来たという人が多かった。同様に博物館の盛岡市でも、先人記念館を校長会の会場で使っており、立ち寄ってもらいたいところを会場にしてということである。</p> <p>博物館でもそのような会場があれば、会場を貸して別用務をきっかけにして観覧してもらって、再認識してもらおうということもあるのではないかと思い、話させていただいた。</p>	<p>これまでも、行政、関係団体や一般の方々から、会議や研修会等を館内の施設（会議室、教室、講堂等）で行い、併せて展示の見学を行う希望があった場合は、積極的に使っていただいている。</p> <p>元々貸出しを想定した館内施設にはなっておらず、使い勝手が制限される場合もあるが、今後ともこのような希望には積極的に対応し、併せて博物館見学の機会としてもらうこととしたい。</p> <p>また、当館講堂は約 140 人を収容でき、照明、音響設備も整っていることから、本年度においても、7月に「親子能楽体験」、12月に「マジックショー」を開催するなどして、入館者数の確保のほか、来館を契機とした館への再認識を期待して、色々な取組をしてきている。</p>
----	---	--

○ その他		
11	<p>【資料の収集・管理】について</p> <p>資料の現物は地元で大切に保管ということになるから、博物館ではそれをデジタル情報化して保管管理していくことになる。情報機器管理が重要だし、デジタルデータ自体も2年に1回くらいは起動して確認しておく必要がある。</p> <p>保管されているものを目に見えるようにすること、多くの方がアクセスできるようにしていく必要がある。</p>	<p>目録は現在、PDFで作成しホームページで公開している。</p> <p>資料のデジタル化については、部門ごとに随時行っており、公開も進めている。</p> <p>現在当館の資料は寄贈の占める割合がほとんどである。高齢化社会に伴い、収集資料の整理から、どの部門とも年々寄贈希望者が増えてきている。収蔵スペースの問題もあり、希望者側の意見だけではなく、県立博物館としてその資料を収蔵するに相応しいかを見極める必要がある。短期的なものばかりでなく、長期的な計画を持ちながら取り組んでいる。</p>
12	<p>【専門研究に係る予算】について</p> <p>専門研究に係る他館や学会への発表の予算も措置されているか。</p> <p>無理のないようにしながら、研究発表もどんどんしようという雰囲気醸成されたい。</p>	<p>調査研究のための旅費については、学芸職員に一人いくらかという形で配分し、それを基本として調製しながら対応しているほか、必要な研修受講等随時の対応も行っている。</p> <p>学芸員の研究成果をホームページに掲載するなど、学芸員の研究成果をより一般の方々にもお知らせするよう取り組み、それが職員のモチベーションにもつながっていくようにするなど、雰囲気醸成に配慮して参りたい。</p>